

「広瀬川創生プラン市民活動プラン作成」委託業務報告書

平成 15 年度

広瀬川創生プラン市民活動プラン

平成 16 年 3 月

仙 台 市

『広瀬川市民会議』準備会

もくじ -

I.本編	1
1.業務の概要	2
1-1.業務目的	2
1-2.業務内容	2
2.市民活動プランの提案	3
2-1.広瀬川創生プラン素案における提案	3
2-2.市民活動プランの公募	5
2-3.考察および提案	14
II.資料編	18
「市民企画コンテスト」実施報告	19
1.実施概要	19
2.公開審査会実施報告	22
3.感想・アンケート回答	39
(資料)	資-1
写真票	資-2
企画募集関係	資-5
チラシ・パンフレット	資-14
当日資料	資-20
寄せられた感想	資-36
広瀬川ホームページ管理	資-43
III.別冊「広瀬川の水文化史」	別-1

I. 本 編

1.業務の概要

1-1.業務目的

仙台市では、平成 13 年度から、「(仮称)広瀬川創生プラン」づくりを行っている。これは、広瀬川の魅力を将来にわたり維持・向上させていくための、市民・行政共通の行動計画である。

平成 14 年度は、同プラン策定に先立つ「広瀬川創生プラン素案」作成において、より多くの市民の参加・協力が得られるものとするための問題点や課題等を検討した。

今年度は、この素案に示された理念を具現化する企画案を広く市民公募し、審査・評価を加えて提案する。

1-2.業務の内容

市民活動プランの企画・提案

市民企画の公募

市民活動プランを公募し、市民活動団体の経験・知識を活用しながら審査・評価を行い、優れた企画について表彰する。

市民活動プラン提案書の作成

市民活動プランの応募企画及び審査の概要等の成果を提案書としてとりまとめる。

市民活動プラン作成のための市民協働イベントの企画・運営

一般市民の広瀬川への関心を喚起することを目的とした、「広瀬川市民フォーラム～広瀬川市民企画コンテスト公開審査会～」を企画・開催する。フォーラムは、市民活動プラン企画を公募し、審査を公開で実施する。

期 日：2004(平成 16)年 2 月 14 日

場 所：エル・パーク仙台 ギャラリーホール(141 ビル 6 階)

内 容：応募者による市民活動プラン企画のプレゼンテーション
公開審査・評価等

2.市民活動プランの提案

2-1.広瀬川創生プラン素案における提案

広瀬川創生プラン素案(平成 15 年 6 月)では、以下のような具体的な活動が提案されている。

(1)具体的活動の提案

広瀬川ふれあいマップづくり。

(エリアを分けて、現況とありたい広瀬川の姿を組み合わせ、近未来系と将来理想系とを作成)

20 世紀から 21 世紀へ手渡された「広瀬川の今」の記録ビデオ作成。

最良の景観に面している付近の一部を散策路として市民に開放することへの模索。市民・事業者の理解を得る。

(広瀬川の自然崖や激しく蛇行する景観は、見るものにとって、たとえようもなく心打たれるものがある)

河川敷を仙台市が公園用地としていることや、不法に畑作などに使用されている現状を考える河川敷利活用に関する研究会。

堰や橋梁、護岸や堤防を考える研究会。

雫が沢になり小川になり流れとなって方々の山々から流れ込む支流や、広瀬川から流れ出る派川を考える研究会。里山とのかかわりを考える研究会。

広瀬川親水ゾーン研究会。

広瀬川の在来魚種(放流魚)研究会。

広瀬川の歴史・文化研究会。

案内看板・サインのあり方研究会。

(大橋の擬宝珠のレプリカ作成。そこに刻まれた「仙人橋下 河水千年 民安 国泰 孰与堯天」の言葉の真髓を研究して後世に伝えるなど)

広瀬川と楽しく遊ぶ千(仙)の提案募集委員会。

「広瀬川の日」や「広瀬川週間」を設置し、仙台市民の祝日として 9 月 28 日を決める。(昭和 49 年 9 月 28 日：広瀬川の清流を守る条例制定)

広瀬川に関わり功績があった人たちを顕彰する。(広瀬川創生賞等)

広瀬川フェアなど、多くの人たちが楽しめる工夫を凝らしたイベントの開催。全国広瀬川サミットの開催と「全国・川とまちづくり交流会」の計画。

(2) 広瀬川創生に向けた行動提案

また、広瀬川創生に向け、「市民」「NPO」「企業」「行政」のそれぞれが主体となつての市民行政協働事業が提案されている。

<システム>

- ① 「広瀬川の窓口」の設置：広瀬川に関する市民参加型の統一部局の実現。一元管理。
- ② 「(仮称)広瀬川市民会議」の設立：広瀬川に関する計画設計管理に市民が広く参加できるシステムづくり。
- ③ 市民、NPO、行政、企業の協働によるプランづくり：既存の計画を踏まえ、協働により実効性のあるプランを作る。
- ④ 流域別に市民モニターを募集し、情報交換や意見交換を行う：源流から河口まで、流域で広瀬川を考える。

<親水>

- ⑤ 親水ゾーン検討委員会の設置：自然を損なわない親水ゾーンを設置し、川の魅力を活用。

<治水・利水>

- ⑥ 適切な取水、下水処理水の有効活用、水資源利用者の検討会：限りある水資源の有効な利活用。低流量問題について。
- ⑦ 市民・NPO・行政・企業協働による治水と管理の検討会：川を自然物として認識する。
- ⑧ 河川敷を占有している当事者との調整：市民共通の財産という認識の定着。

<川への認識>

- ⑨ 川の学校の開設：広瀬川とかかわる水文化の継承。
- ⑩ プログラムの開発：広瀬川探訪会の定期開催など。若い世代の関心を高めるプログラム開発。
- ⑪ 市民会議・フォーラムの開催：理念の共有。
- ⑫ 全国広瀬川サミットの開催：他河川との比較を通じた広瀬川の認識。
- ⑬ 市民モニターによる報告：広瀬川の現状の把握。
- ⑭ 環境問題の勉強会の開催：日常生活の中で、気づかずに環境破壊していること。

<森林の保全>

- ⑮ 源流部の植林と手入れをする「広瀬川に水を呼ぶ供の会」の立ち上げ：良質な森林作りの促進。
- ⑯ 里山の調査：源流部の現状の認識。

<その他>

- ⑰ 広瀬川ガイドの養成：高齢者が広瀬川に携われる「場」づくり。

2-2.市民活動プランの公募

広瀬川創生プラン素案において多くの提案がされているが、さらに一般市民の広瀬川への関心を喚起することを目的として市民活動プラン企画を公募し、それらの発表会および審査会を行った。

(1)企画の公募

多くの市民の参加・協力のもとに推進される市民活動プラン(「(仮称)広瀬川創生プラン」の中で取り組むべき市民活動事例)を、広く市民から公募した。募集要項は、「仙台市政だより」および、新聞(河北新報)に掲載した。

「広瀬川創生プラン・市民企画コンテスト」企画募集

優秀なプランを表彰し、16年度設立予定の広瀬川市民会議の事業として実施します。

●募集内容=広瀬川に関する市民活動の企画 ●応募資格=3人以上で組織されたグループで活動の拠点が市内にあり、応募者自らの履行を前提とすること。1グループ1件まで ●助成対象=企画立案し、公開審査会で発表するために必要な経費。限度額は1グループ5万円 ●応募方法=市役所本庁舎4階企画調整課、広瀬川市民会議準備会事務局(青葉区上杉1-4-25 3階 特定非営利活動法人水環境ネット東北内)で配布する申込書で11月20日までに郵送で

☎企画調整課 ☎214・0010、
広瀬川市民会議準備会事務局 ☎723・1390

<=11月1日発行の仙台市政だより全市版

【募集要項】

広瀬川に関する市民活動企画

- ・広瀬川とよりよい関わりを持ちながら、主体的に活動するための企画。
- ・誰でも参加でき、みんなで楽しめる企画。
- ・広瀬川とその支川・派川を企画実施のフィールドにしていること。

募集資格と条件

- ・仙台市内で活動する3人以上のグループであること。
- ・代表者は成人であること。
- ・1グループで1件の応募とする。
- ・1人で複数のグループに所属してもよい。

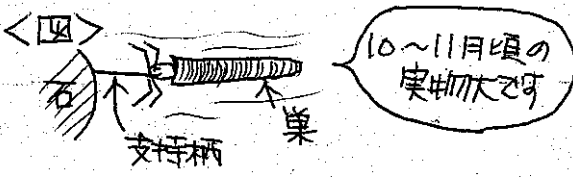
審査の基準

- ・誰もが参加できるものであること。
- ・安全性が高く、実行可能な企画であること。
- ・環境を大切にす視点をもっていること。
- ・営利を目的としないこと。
- ・以上の基準を全て満たしていること。

(2)応募企画

市民活動プランの募集に対し、下表I-1に示す19の企画の応募があった。
 応募企画については、公開審査会のための第1次審査(書類審査)を行った。
 表中の第1次審査の付帯事項は、書類審査時のコメントである。

表I-1. 各企画の概要と付帯事項

<グループ名> 企画のタイトル	企画の目的 フィールド	実施内容	第1次審査の付帯事項
<p><宮城教育大学水生昆虫研究会> 水中ミノムシ、キタガミトビケラの住む川づくり</p>	<p>最も観察しやすく、河川環境と強く関係していながらあまり知られていない水生昆虫(特に今回はキタガミトビケラを中心)にスポットをあてることで、広瀬川環境を理解し、今後の保全のあり方を考察する機会を与えるものである。</p> <p>フィールド:広瀬川全域(特に上流域が生息密度が高いことが、予備調査で分かっている)</p>	<p>トビケラの幼虫の仲間は、別名「水中ミノムシ」と呼ばれ、一般的に筒状の巣を作り、カタツムリのように川底で生活している。キタガミトビケラは、その巣の前端に独特の長い支持柄を持つ種で、周囲の環境が豊かな所によく生息している。</p> <p><キタガミトビケラ観察の利点> 見つけやすい、生活しているところが見やすい(捕まえたり、飼ったりする必要ナシ)環境によって個体数が大きく変わる。</p> <p><方法>キタガミトビケラの分布調査</p> <p>1)ガイドブックの作成 広瀬川流域の小～中学校の体験学習として取り組める。もちろん、一般市民の参加も期待できる。</p> <p>2)分布地図の作成 水温、水質、他の水生生物、植物との関係を追加する。 キタガミトビケラの分布を通し、広瀬川をどう管理していくべきなのかを提案する。子供達に、自身の周りの環境を意識させ、将来の広瀬川の環境保全に対して、興味を抱かせることが期待できる。</p> 	<p>自主研究または専門的な研究から1歩踏み出し、その昆虫が広瀬川の生物指標であることを多くの人たちに理解してもらうための工夫がほしい。</p>
<p><仙台市カヌー協会> 広瀬川で泳ごう マジで!!</p>	<p>広瀬川の美しさ楽しさを体感するために、本当に泳ぐのです。しかも、1日ずっと“川水浴”の開設。</p> <p>フィールド:青葉区熊ヶ根野川直下の河原にて</p>	<p>対象:小学生以上 方法:川の瀬、淵に入り実際に泳ぐ(親も子も、大人も子供も、犬も全て)・流れのあるところで魚気分満喫・きれいな水質・カジカとり。 監視人は3人。 内容:河原で一日過す(20人ぐらい) 泳ぐ、食べる、寝そべる、つかまえる 押し付けではなく感じること 実施期日:初夏か真夏</p>	<p>良い企画だと思うので、年に数回実施してほしい。</p>

<グループ名> 企画のタイトル	企画の目的 フィールド	実施内容	第1次審査の付帯事項
<p><宮城教育大学自然研究会> 広瀬川「緑の回廊(コリドー)」構想</p>	<p>広瀬川は山形県境を上流端として、山や多くの木々の間を抜け、中流部から下流部にかけて仙台市街を流れてくる。流域面積 311km²、長さ 45.2km におよぶこの広瀬川の流に沿って、多様性に富んだ豊かな森を作り上げ、野生生物が自由に移動できるような「緑の回廊(コリドー)」を創出することが目的である。</p> <p>フィールド：広瀬川全域がフィールドとなるが、特に、中流(牛越橋)～下流域(名取川との合流地点)にかけての「緑の回廊」が途切れている範囲で重点的に活動を行う。</p>	<p>緑は連続していないと意味をなさないし、水と緑は有機的につながっている必要がある。しかし、広瀬川は治水対策の護岸工事による河畔林の損失と、それに伴う動物たちの生息地域の分断への対策が今のところ十分に行われていないように思われる。そこで、動物や昆虫の立場から「緑の回廊」を構成すべき樹種を選定し、植樹を行い、動物が広く移動できる空間を創出することが重要であると考えられる。</p> <p>具体的な活動は以下の通り。</p> <p>「緑の回廊」づくりに必要な苗づくりや植樹の実施：これは子供たちに体験学習としてやってもらう。樹種は野鳥や獣が食べる実のなるもの(ドングリ類、ナナカマドなど)、チョウの幼虫が食べるもの(ヤナギ、エノキ、ハンノキ、オニグルミなど)、カブトムシやクワガタムシが集まる樹液を出すもの(コナラなど)である。</p> <p>自然観察会の実施：「緑の回廊」の緑が豊に育ってくれば、自ずと広瀬川には魚をはじめ多くの生き物が戻ってくる。そして、広瀬川で遊ぶ子どもたちの姿が戻ってくる。市民の自然観察の場、憩いの場として広瀬川が利用されることを目指して自然観察会などの活動を積極的に展開し、「緑の回廊」の重要性を啓発していく。</p> <p>広瀬川に沿った「緑の回廊」は1本の大きな縦系であり、将来的にはそこから周辺の森へと延びる多数の横系となる回廊を張り巡らすこと、すなわち、広瀬川という緑の「線」を仙台市という「面」まで広げていくことが「緑の回廊」構想の究極のゴールである。</p>	<p>企画実現に向けての具体的な調整・調査が必要ではないのか。</p>
<p><ミステリーツアーグループ> もっと知りたい広瀬川</p>	<p>広瀬川上流部をもっとよく知ってもらうために、上流部の名所を開発(発見)し、ループルバスを走らせたい。いずれは近所の物産をならべたり、おでんや芋煮程度の簡単な食事のできる道の駅のようなものを市民団体に運営したい。白沢の民家をかりて民謡をきくなどの新名所もつくってみたい。</p> <p>フィールド:作並駅 作並温泉 ニッカ 鳳鳴四十八滝 大倉ダム 定義如来 白沢 作並駅 と、まわるループルバスを土日だけでも走らせたい。</p>	<p>発起人・賛同者によるリサーチを行い観光拠点を決める。 決めた場所でのアンケートを行う。 決定したコースを公募した人をのせて試乗してみる。</p>	

<p><グループ名> 企画のタイトル</p>	<p>企画の目的 フィールド</p>	<p>実施内容</p>	<p>第1次審査の付帯事項</p>
<p><NPO 法人 みどり十字軍> 広瀬川センター設置(H.R.C)</p>	<p>広瀬川のセンター的なものは仙台市にはなく、市民と子どもたちとのふれあい、活動の場のフィールドとして、環境、自然、生態、教育の活動の場として設置したい。</p> <p>フィールド:現、水道記念館を改める。 付近の広瀬川周辺及び里山。</p>	<p>現、水道記念館を広瀬川センターと改めて、自然、環境、生態系調査、市民と広瀬川とのふれあいの場として、また、子どもたちの教育の場として改めて、現、水道記念館の内容・名称を改める。周辺の広瀬川、里山を含めて一大センターとして、また、内容を充実させて、行政と、NPO、学識者との共同の場としたい。(鳳鳴四十八滝も含むエリア) 無論、従来の水道記念館としての業務も行う。</p> <p>今、森林が荒れているが、森林は手入れが必要である。行政、市民、NPO が中心となって、みんなで山の手入れをしていこうと思う。</p>	
<p><広瀬川ミズガキ応援団> 広瀬川の生き物を調べてみよう</p>	<p>広瀬川の生き物を調べ、身近な環境について学ぶとともに、ミズガキ(水辺で遊ぶ子ども)及びミズガキ応援団(水辺で遊ぶ子どもをサポートする大人)を増やすことを目的とする。</p> <p>フィールド:野外講習...広瀬川中流、霊屋橋下流付近 室内講習...片平市民センター</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.企画会議: 専門家を交え、観察会の実施時期や内容について、話し合う。 2.現地下見: フィールドを下見し、観察会の実施場所を設定する。 3.事前会議: 観察会実施にあたって、役割や必要な備品・装備について確認する。 4.生き物観察会の実施: 親子対象の生き物観察会を実施する。 手網で魚類や水生昆虫等を採取する。水槽に移し、観察する。生き物をスケッチする。発見したことを発表する。生き物を採取した場所へ戻す。 5.事後会議: 観察会を振り返り、良かった点、悪かった点、今後の改善点について、話し合う。 6.報告書の作成: 事後会議終了後、報告書を作成する。 	<p>校外学習や市民センターでやっていることの二番煎じにならないよう、応援団の組織づくり(仲間づくり)に発展すべきではないか。 企画者が外に対してどう働きかけるかが、企画の実現を左右すると思う。</p>
<p><(仮称)広瀬川水源創生クラブ> 広瀬川は仙台の母、 水源はその祖父母の地</p>	<p>非営利法人として、年間に市民一人当たり 10 円(計 1,000 万円)の寄付を集め、広瀬川上流に植樹を進める。50 年継続を目途に行政、企業、市民、三者一体の活動とする。</p> <p>フィールド:当初は、大倉川上流右岸の「十里平」を中心とした植林。最初は学者、専門家、行政、市民団体の代表(地域代表も含む)で、植樹の苗の種類、方法(保護も含む)、手入れ等の基本を作成し、1~2 年は、春・秋の試験的植え込みを行う。同時に資金調達、同好会の確立、苗木の手法など、具体策を確立する。以上、2050 年を目途に次世代に引きつぐ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1)資金毎年 1,000 万円の確保をめざし、水資源の直接利用者(水道水 = 市民、発電 = 東北電力、工業用水 = 企業、農業用水 = 農協水利組合、漁業 = 協同組合、他)より資金提供を受ける。同好会は街頭募金の活動を行う。 (2)苗木(水道局他の利用団体より受ける) (3)行動(作業)は同好会と賛同者による(弁当持参) (4)人、材の運搬は、市水道局の責任で市バスの提供。目標は当面、春秋を通し年間 1,000 本の植え込みとする。将来は年間 500 本の確保。PR は市、区政だより、県政便り、その他マスコミによる。注)本日の大橋下の水位は約 10cm。岩盤全面露出。中水道もよいが数百億~一千億の経費がかかる。 	<p>仙台市の「百年の杜づくり」ですでにやっていることだと思ふ。 植樹を必要とする根拠を示すべきではないか。 他との連携が必要。</p>

<p><グループ名> 企画のタイトル</p>	<p>企画の目的 フィールド</p>	<p>実施内容</p>	<p>第1次審査の付帯事項</p>
<p><広瀬川の文化史会> 広瀬川で鯉のぼり</p>	<p>5月に広瀬川に鯉のぼりを飾る。七夕祭りだけではなく、季節ごとに川で遊ぶ。 フィールド:大橋上流</p>	<p>5月に広瀬川にロープを張り渡し、家庭で使用しなくなった鯉のぼりを集めるなどしてつるす。 5月の行事として、町に彩りを添える。</p>	
<p><評定かわらっこ> 広瀬川「まさむねウォーキングロード」の設定</p>	<p>仙台のシンボル広瀬川を、イメージ的存在から、具体的なアクションプランの対象として位置づけ、多くの市民や、訪れる観光客に参加して貰い、親しんで貰うことを目的とする。 フィールド:仙台城址～大橋～評定河原～霊屋橋を含む瑞鳳寺までの河畔及び旧跡などを含む沿道</p>	<p>開府400年記念事業として、後世の仙台市民に残せる事業として、あおば城址公園から、伊達政宗公の御霊の眠る瑞鳳寺(瑞鳳殿)までを含む河畔、沿道、旧跡を整備して、日常的に親しんで参加できる「まさむねウォーキングロード」として創生する。 現在は、河畔は、花壇あたりは、途中、道が切れており周遊できず、河畔への入り口の階段も、急であり、手摺もなく、照明も設置されていない。自然の景観を楽しみながら親しむには、おおよそ縁の遠い現状である。安全な環境に整備し、案内標識を掲げて、自然な環境を生かして整備すれば、広瀬川河畔と政宗公を一体化できる「まさむねウォーキングロード」として、後世に残すことができるのではないだろうか。 毎年、定例的に開催される、参加することに意義のあるウォーキングラリーイベントを開催することで、市民の積極的な参加を高め、健康な仙台市民づくりに寄与できる。(京都市内を流れる加茂川、金沢市の浅野川河畔の整備されたイメージ)</p>	<p>文化・歴史関係の情報については「広瀬川の文化史会」に問合せほしい。</p>
<p><芋煮会くらべてみれば> 広瀬川クリーン&エコ芋煮会 コンテスト</p>	<p>広瀬川の河川敷での芋煮会を、環境に負荷をかけない方法で楽しむやり方を普及する。 フィールド:広瀬川河川敷</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.応募グループ・団体の募集 2.審査員・審査方法の決定 3.審査・表彰 4.展示、芋煮会方法のレシピ紹介 	<p>芋煮会そのものが環境をこわすのではないか。</p>

<p><グループ名> 企画のタイトル</p>	<p>企画の目的 フィールド</p>	<p>実施内容</p>	<p>第1次審査の付帯事項</p>
<p><宮城教育大学魚類研究会> いつでも魚が群れ泳ぐ 広瀬川をめざして</p>	<p>広瀬川は、人々が気軽に立ち寄ることができる全国でも珍しい都市河川である。そこで景観やせせらぎを愛でるだけでなく、四季折々川の中に入って川魚やカニなどと触れ合うことができる、より実りのある空間へと育てゆきたい。川に魚を増やすためには、エサと隠れ家、そして子孫を残すための産卵場所の三位一体の確保が必要である。私達の活動ではアユ、ウナギ、ヤマメ、モクズガニなどを対象に、これらの環境を市民の手によって創出していくことをめざしている。</p> <p>フィールド:名取川との合流点からはじまり、市内中心部を経て愛子地区までの広瀬川本流をメインフィールドとする。この範囲内は、上流側からヤマメ、ウグイ、アユ、ウナギ、コイ、モクズガニなどの生息好適地と考えられる。</p>	<p>1) 名取川との合流点から愛子地区までの広瀬川について、水温の季節変化や河川勾配、川岸の植生などの環境条件を調査し、特徴を整理する。また各定点において四季を通じて魚類の餌となる水生昆虫(カゲロウ、カワゲラ、トビケラ類)や藻類などの出現種調査を行うとともに、本テーマにおいて対象となる魚類やカニ類の捕食活動・繁殖場所についても調査を行う。</p> <p>2) 上記の特徴に基づいて、広瀬川各所にヤマメ、ウグイ、アユ、ウナギ、コイ、モクズガニなどの成長ゾーンや産卵・初期成長ゾーンを設定する。対象がアユであれば、例えば北堰より下流を成長ゾーンとし、餌となる藻類が生え、成魚の縄張りとなる大石を適宜設置する。また、対象がヤマメであれば、例えば北堰より上流を成長ゾーンとし、隠れ家となる大石や、餌となる昆虫類が生息し、またその昆虫が餌としても利用する植物を河畔に植樹する。</p> <p>3) こうした基盤を設置した上で、魚類の増殖にも取り組むことを検討する。すなわち広瀬川で採捕した各種魚類を養殖し、増えた稚魚を再び広瀬川に戻すといった活動を行う。</p> <p>4) 魚類やカニ類の生息量は、研究開始時から私達市民の観察によってモニターする。良好な結果が得られた場合にはその科学的根拠を明らかにし、各種機会に公表する。また、問題点についても考察し、さらなる改善箇所についても科学的に検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共性と一般参加の度合いが課題。 ・漁協や他団体との連携、市民・生徒の参加をすすめてほしい。 ・小中学校の校外学習でもやっているの、四季を通じての調査をし、何か新しいものを見つけてはどうか。 ・魚の放流は是非かとか、生態系とはなどのディベートをするなどはどうか。
<p><宮城野淡水魚研究会> (企画タイトル未定)</p>	<p>仙台の中心部を流れる川として渇水期における広瀬川の減水の様は魚に大きなダメージを生じている。流れに沿って魚が自由に移動できる柴を用いた護岸を作り、魚のユートピア回廊を作る。</p> <p>フィールド:広瀬川の中流域(牛越橋付近)～名取川との合流地点より少し下流まで、特に合流点を重点的に行う。</p>	<p>広瀬川の下流においてはブラックバスの生息により小魚・稚魚が少なくなりつつあり、柴での護岸を中流より下流(合流点)、特に合流点付近を重点的に作り、魚の回遊・避難・採餌等に役立てる。柴での護岸によって市民が水辺の近くまで観察に訪れやすく、柴の隙間によって水の浄化、ブラックバスによる小魚の避難場所の構築が計れる。中流より下流の連続性による魚の再生産向上に大いに役立つと思われる。自然工法により今までのコンクリート工法の欠点を補い、市民と川の生物を密着につなぎ、市民の集いの場所とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や漁協、市民団体と連携し、協議してすすめることが大切。 ・2月までに連携の経過をまとめてほしい。

<グループ名> 企画のタイトル	企画の目的 フィールド	実施内容	第1次審査の付帯事項
<p><かいつぶり> 広瀬川河畔遊びの開発</p>	<p>広瀬川の特徴を調べ、それを活用して独特な面白さのある遊びを創作する。屋外の遊びを復活させることにより、子供同士のつながりを取り戻すきっかけとし、川と遊びながら広瀬川を知り、自然の中で過ごす時間を増やす。</p> <p>フィールド:広瀬川全域</p>		<p>もっと具体的、継続的な企画が欲しい。 創作と復活の2本立ての企画になると思う。</p>
<p><NPO 法人水環境ネット東北> (仮称)「もっと知りたい仙台・広瀬川」出版へむけて</p>	<p>仙台のことを、広瀬川のことを、もっともっと知る作業をして、文化や暮らし歴史など水と人々とのかわりの観点から、関わりたいという市井の人々の公募で、出版委員会を作り各項を分担して調べ執筆し、出版する。知る作業過程を丁寧に、出版へのかかわりの中で広瀬川への思いを膨らませ、市民の広瀬川像の共有を明らかなものにしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仮称『もっと知りたい仙台・広瀬川』出版委員会をつくる。(公募) ・委員会を開き、項目整理(目次づくり)、調査、取材、執筆者などの担当を決める。 ・出版社を決め、諸打合せに入る。 	
<p><広瀬川に河童を呼ぶ会> 広瀬川に「河童」を呼ぼう 「河童」のブロンズ像、焼物像を (造って、焼いて)置こう</p>	<p>市民との触れ合い、交流が「疎・粗」になっていく我らの「広瀬川(橋、河原も含めて)」に、『河童』という擬人体を呼び(造って、設置して)市民との「会話性、話題性」を創出し、「清潔で、生き物に優しい、身近に親しめる川」への、「仲介シンボル」にしたい。伝説上の動物「河童」には、諸々の思い(評価)があるが、「可愛い河童」を模作して、横浜港の『赤い靴像』、田沢湖の『たつ子像』・・・のようなものを、そのひとつにイメージしたい。</p> <p>フィールド:造った河童のブロンズ像、焼物像の設置場所(案)として、広瀬川の1.源流地区(ごみ投棄の著しい地域・関山、熊ヶ根地区?) 2.野川橋、牛越橋、澱橋から広瀬橋までの流域(橋、堤防、河原、中州)</p>	<p>夫々のイメージで、河童のブロンズ像、焼物像を造り、広瀬川の諸所(橋の欄干、堤防、河原、中洲)に付設、設置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ブロンズ像については、予算との睨みになるが、専門家に「ブロンズ像」を制作委託する。(市内の諸彫刻の如く) 2.焼物像については、市民による、「諸々のデザイン・イメージの河童像」製作大会、「コンペ」を行い、市民の触れ合い、関心の高揚、直接参加による親近感(愛着)の醸成を図る。 	<p>かっぱはすでに県内(色麻町)にあるので、もってくるのは難しいのではないかと。 かっぱは広瀬川とはなじまないような気がする。 カジカガエルの方がいいかもしれない。</p>

<グループ名> 企画のタイトル	企画の目的 フィールド	実施内容	第1次審査の付帯事項
<p><CIL たすけっと> 川辺のユニバーサルデザイン 「車椅子で釣りへ行こう」</p>	<p>人にやさしいまちづくりの一環として、都心部の 広瀬川の一角に車椅子で水辺に近づく空間を創出 する。それによって高齢者・障がい者でも誰でも河 川空間の自然を楽しむ機会が持てるようにする。</p> <p>フィールド:広瀬川(広瀬橋～八本松)右岸 水辺</p>	<p>河川管理者と協議の下、水辺のユニバーサルデザインに関する打合せ、 プラン作成・管理者の工事实施に向けた実現を使用する側から発信する。</p>	<p>ニーズ調査をつきつめてい ければよいのではないか。事 例集の収集もほしい。 行政との事前協議が必要。</p>
<p><NPO 法人広瀬川の清流を守る会> 笹川遊水地、名取・広瀬川合流点に おける自然再生事業</p>	<p>笹川遊水地および名取・広瀬川合流点における環 境保全の必要性を共有で認識し、今後の保全のあり 方を考察。専門的知見の下、自然再生推進法による 協議会の結成と関係者による環境保全に向けた事業 の展開を推進する。</p> <p>フィールド:笹川遊水地および名取・広瀬川合流点</p>	<p>関係行政機関、専門家、関係団体協議の上、環境保全の認識を共有し、 自然再生推進法による協議会を立ち上げて事業の推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空間を広々としておきたい 感じもする。 ・事前調査が必要。
<p><ゆうゆう・アユクラブ> 広瀬川に天然アユを再生させよう</p>	<p>広瀬川のアユ激減の危機を救うため、関係行政機 関と連携した天然アユ再生を図るプロジェクト推 進。</p> <p>フィールド:名取・広瀬川合流点および広瀬川全域を対 象とした調査研究、関係行政、機関との協議会設置 へ向ける。</p>	<p>国土交通省仙台河川国道事務所・宮城県・仙台市・漁協・釣り人・釣具 店の協力と連携を下に他の河川の取組み事例を考察、科学的データを入れて アユ再生プロジェクトを推進する。調査研究、協議、シンポジウム開催 へ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県、市の連携でやってほ しい。 ・事前調査、事前協議、連携、 報告が必要。 ・アユのデータなどが一般市 民には知られていない現状 がある。 ・アユの生息状況を常に把握 する活動もいいのでは。
<p>(グループ名未定) 絵看板の設置</p>	<p>百万都市仙台にあって、どれほどの人が広瀬川に ついて認識しているだろうか。全国的には「青葉城恋 唄」によって仙台に対する注目が高くなったことは 確かかと思うが、肝心の仙台の人達の広瀬川に対す る認識の度合いはどうだろうか。広瀬川の水源地は？ 広瀬川はどこからどこまで？ 橋はいくつあるの？ などなどについて、もしそれを知ったらおどろく人 が多いのではないか。それらのことを多くの人に知 らせるため、絵看板を設置する。</p>	<p>広瀬川の源流から名取川の合流点までの(橋入り)絵看板設置。 ・仙台駅ペDESTリアンデッキ、仙台市公民館または青葉城、西公園遊歩 道、(眼下に広瀬川が見えるところ)。 大橋、牛越橋、開成橋、大沢橋、熊ヶ根橋、第二中ノ目橋を示す絵入り の看板(別紙にイラスト有)を 44ヶ所全部に設置したいが、落合から熊ヶ 根付近までは都市化が進み、住宅によって川の位置を知ること容易でない。 広瀬川で此処はどうしても見て頂きたい所には、別様式の看板を設置す る。(例)鳴合峡の七つ石(鳴合温泉付近)、鳳鳴四十八滝などなど。(全ての 看板には、川をきれいにすること、ゴミは持ちかえることの注意書きを必 ず記入する)</p>	

(3)「広瀬川市民企画コンテスト」の開催

応募された市民活動プラン企画は、1次審査を経て、広瀬川市民フォーラム～広瀬川市民企画コンテスト公開審査会～「広瀬川おもしろ企画発表&審査会」(2004年2月14日)において公開で審査した。発表は、19団体のうち6団体が辞退したため、13団体によって行われた。

企画コンテストの詳細については、別途「資料編」参照のこと。

表1-2. 応募企画と発表辞退状況

	名 称	グループ名	発表
1	水中ミノムシ・キタガミトビケラの 住む川づくり	宮城教育大学水生昆虫研究 会	
2	広瀬川で泳ごう マジで！！	仙台市カヌー協会	
3	広瀬川「緑の回廊(コリドー)」構想	宮城教育大学自然研究会	辞退
4	もっと知りたい広瀬川	ミステリーツアーグループ	
5	広瀬川センター設置(H.R.C)	特定非営利活動法人 みどり十字軍	
6	広瀬川の生き物を調べてみよう	広瀬川ミズガキ応援団	
7	広瀬川は仙台の母、水源はその祖父 母の地	(仮称)広瀬川水源創生クラブ	
8	広瀬川で鯉のぼり	広瀬川の文化史会	
9	広瀬川「まさむね ウォーキングロード」の設定	評定かわらっこ	
10	いつでも魚が群れ泳ぐ 広瀬川をめざして	宮城教育大学魚類研究会	辞退
11	(企画タイトル未定)	宮城野淡水魚研究会	辞退
12	広瀬川クリーン& エコ芋煮会コンテスト	芋煮会くらべてみれば	
13	広瀬川河畔遊びの開発	かいつぶり	
14	(仮称)『もっと知りたい仙台・ 広瀬川』出版へむけて	特定非営利活動法人 水環境ネット東北	
15	広瀬川に「河童」を呼ぼう	広瀬川に河童を呼ぶ会	
16	川辺のユニバーサルデザイン 「車椅子で釣りへ行こう」	CIL たすけっと	
17	策川遊水地、名取・広瀬川合流点 における自然再生事業	特定非営利活動法人 広瀬川の清流を守る会	辞退
18	広瀬川に天然アユを再生させよう	ゆうゆう・アユクラブ	辞退
19	絵看板の設置	(グループ名未定)	辞退

2-3. 考察および提案

(1) 広瀬川に対する市民の意識

「悠久の流れ・広瀬川創生プラン策定基礎調査」(平成14年3月)においては、仙台市民を対象とした「広瀬川に関するアンケート調査」を実施している。

< 広瀬川に関する市民活動の現況 >

- ・ 広瀬川に関する市民活動団体は40程度ある。主な活動内容は「河川清掃」「自然観察」「イベント開催」などであり、「環境教育・啓発」が多い。
- ・ 「利活用の方策」「水質」「ごみ」「生態系」を問題視している団体が多い。活動内容としては、生物調査、観察会・見学会などである。

< 仙台市民の意識 >

- ・ 広瀬川は市のシンボルとして愛着を持っている人は8割近いが、保全・活用に関する市民活動は活発ではないと思っている人の方が多い。
- ・ 市民の意識、意向では、「イベント」(32.5%)や「清掃活動」(25.9%)に参加したいと考える人の割合が比較的多い。
- ・ 実際に「広瀬川の活動」に参加したことがある人は、全体の4%であった。
- ・ 内容については、「遊びながら楽しくやれる活動」や「学べる・役に立つ」ものを望む傾向がみられた。

< まとめ >

アンケート結果から、現在、広瀬川において様々なイベントや清掃・自然観察などを行っている団体は数多くあり、一般市民の中にも川に愛着を持ち、川にかかわる活動に参加したいと考えている人が多いことが明らかになっている。また、それぞれの団体の活動内容も、市民が参加・協力したいと思っている内容に近いものとみられる。

しかし、実際に広瀬川の活動に参加したことがある人の割合はわずかで、またそういった市民活動は活発ではないと考えている人が多いのが現状である。

関心はあるが、積極的に自分から活動に参加するなど、実際に具体的な行動に移すまではいかないという人が大半であると考えられた。

(2)市民企画コンテストの結果について

「広瀬川市民企画コンテスト」において提案された内容は、「川や自然観察・体験・遊び」、「地域紹介・観光」、「自然保全・生物保護・再生」と分類される。

コンテストでの参加者投票による「私も参加したい賞大賞」となった企画は、上流部にループバスを走らせる「もっと知りたい広瀬川」、5月に川にロープを張って鯉のぼりを飾る「広瀬川で鯉のぼり」、散策路の整備や案内標識の設置を提案した「まさむねウォーキングロード」であった。上記の分類によると、これらは「地域紹介・観光」分野の企画にあたる。

「私も参加したい賞」は企画に主体的に参画したいものという意味であったが、多くの参加者は、そういう企画があればお客さんとなって参加したいものを選んだように思われる。

市民企画コンテストへの会場参加者は、広瀬川に関心のある人たちであると考えられるが、「誰かがやってくれれば参加したい」という受け身の姿勢がうかがえた。

市民協働を実現するには、こういった市民を参加から参画へとどのように取り込んでいくかが大きな課題であると考えられる。特に若い世代になると、川に訪れるのは芋煮会のみである場合も多く、また居住地による意識、関心の差異も大きい。このことから、コンテストで発表された企画に関心を持った参加者が、企画の実現に向けてより主体的に参加できるようにするため、これからの仕組みづくりや広報体制がより重要であろう。

今回のコンテストで、参加者から共感を得た魅力ある企画を実際に実行することにより、それに参加した人がその後参画や主催する立場で活動をはじめられることも期待される。今後は、さらなる潜在的な参加者の掘り起こしが大きな目標のひとつといえる。

(3) コンテスト実施方法について

応募企画の総数(19 団体うち辞退 6 団体)

- ・企画者が実際に企画をやらなければならないと構えてしまい、気安くアイデアのみを出してもいいという受け止め方はされなかったと思われる。
- ・市民の中には、自分は参加するだけという人も多いことから、企画の実施を求めない自由なアイデア募集の部門があっても良かったのではないかと。

発表辞退状況

- ・代表者の不調、企画が上手く進まなかったためという理由の他に、査定された助成金額に納得できない、この助成金額では活動できないという辞退が 3 件あった。
- ・企画立案と発表のための経費助成という趣旨が伝わらず、企画の実施のための経費助成との誤解があったと思われる。

広報

- ・チラシ 2,000 部、市政だよりや新聞、広瀬川ホームページ上などで告知したが、宣伝が足りないという意見もあった。
- ・141 ビル内での宣伝が会場のギャラリーホール入り口だけであったためか、当日フリー参加の人は少なかった。
- ・参加者数把握のため事前申し込み制としたが、気軽に参加しにくい面もあったと思われる。

プレゼンテーションの方法について

- ・パネルだけでは会場の後方からは見づらく、プロジェクターを用い、スライド・パワーポイントを活用するなど工夫が必要である。
- ・審査形式の、発表 5 分、質疑応答 5 分という時間配分については賛否意見があった。
- ・要旨集は準備した方がわかりやすいと思われた。

審査方法

- ・加算方式で、よい部分を認め合う雰囲気は参加者に好評であったが、評価に差が出にくい面もあった。
- ・参加者からの質問を受け付けてほしいという意見もあった。

参加したい賞

- ・自分が参加できるもの(主催)が基準となったため、参加者の年齢層(大人)の影響が出てしまい、子供向けの企画は票数が少なかった。

(4)今後の課題

「広瀬川創生プラン素案」でも述べられているように、市民行政協働を進めるうえで「市民」「NPO」「企業」「行政」がお互いを信頼し合い、それぞれの役割に責任を負っていかねばならない。

- ・市民：昨年開催された「広瀬川市民フォーラム」における「広瀬川への手紙」や、公開審査後のアンケートのコメントからも、市民の広瀬川に対する想いはとても強いことがわかる。しかし、実際に何か行動を起こすところまでいく人は少数派であることから、活動の原動力として巻き込んでいく工夫が必要である。
- ・NPO：それぞれ各団体の独自の活動のみならず、市民、企業、行政などのつなぎ役として、共通の目標に向かってのNPOの連携が必要となっている。しかし、「悠久の流れ・広瀬川創生プラン策定基礎調査」（平成14年3月）によると、他団体と連携した活動を行っているのは4～5団体となっており、広瀬川を活動のフィールドとするNPO同士の連携はこれからの大きな課題であるといえる。
- ・企業：専門的な知識と技術を持っていることから、市民行政協働における社会的役割は大きいと考えられる。しかし、今回のコンテストへの応募はみられなかった。企業の社会貢献の視点からも、多様な広瀬川創生プランへの参画が望まれるところである。
- ・行政：「参加したい賞大賞」に選ばれた企画をはじめ、様々な企画を実現するには行政間調整や許可が必要なものが多い。また、資料提供、情報公開などの支援も欠かせないものとなっている。より柔軟な姿勢によるフォローが必要になっていくと考えられる。